# 相政は男だ

帝キネ時代映畫

原作脚色者　高井清太郎
監督者　矢内政治
撮影者　鍋本榮一郎

――主要役割――

相模屋政五郎　明石絲郎
新門辰五郎　尾上紋十郎
庵原甚之助　賀川清
花柳榮壽　松枝鶴子
庵原妻　千草香子
相模屋娘　お照　津守玉枝
山内容堂　青木芳美
相模屋幸右衛門　阪東豊昇
仙臺屋與兵衛　東良之助
同　治三郎　市川澁老三郎
相模屋乾分　五助　中村獅獸平
板垣退助　長田芳川
跡部大之助　中村甑曉
勝間源右衛門　嵐寛十郎
蛇の目の宇平　中村仙三郎
中万字亭主　片岡紅三
土佐藩士　瀬川豊次郎
立花家仲間　清島綠之助
同　矢野英二
舞弟子　市川精三
老島者　浦豊

解説――矢野政治氏の「傘の平内、白柄組征服篇」に次ぐ作品である。

略筋――相模屋幸左衛門の娘お照には、政五郎といふ妻子があつたが、仙臺屋與兵衛は悖治三郎のためにお照を買ひ受けんと謀じ、斷はられ爭ふ中に斬られた。その時、幸左衛門は何者かのために殺害された。この相模屋と仙臺屋の爭ひは新門辰五郎の口利きで物別れとなつた。政五郎はお照と一緒にゞり相模屋の後を追ぎ昇天の勢ひで賣り出した。遊女幾世が、夫庵原甚之助と共に仇の一人勝間源左衛門を討つた喜んだ相政は、身受けの金の調達を引受けたが、不足の百金のため困却してゐると、兼れて相政を慕ふてゐた花柳榮壽がそれを立替へた。相政は勝間殺害の疑ひで土佐邸へ引き立てられたが、實は彼の俠氣を信任される山内容堂公から重大なる任務を托されるためであつた。松平新彌はも庵原の今一人の仇、跡部大之進の密告に依り政五郎を捕え、妻子を眼前に苦しめ土佐の秘密を口狀せしめんとしたが、彼は「相政は男だ」と豪語して口を開かなかつた。折しも土佐藩板垣の出現に依つて新彌等の計畫は空しくなり、跡部は庵原夫妻のために討たれた。甚之助は曾つて仙臺屋治三郎に依賴されて幸右衛門を殺害した貴を負つて自刃し、榮壽は治三郎を刺し、政五郎へ儚ない戀を抱いて逝つた。かくて波瀾は熟り、相模屋政五郎は重大なる使命のために旅立つた。

寫眞――「相政は男だ」帝キネ矢内政治作品。明石絲郎と津守玉枝。